



ノミ・マダニ予防

家の中で生活していれば、ノミ・マダニの予防は必要ないと考えてしまうかもしれませんが、庭に出入りする猫や、散歩で会う犬、人が家に持ち込みペットに移してしまうことがあるため、通年での予防をおすすめしています。

今回はノミ・マダニの特徴、媒介する感染症とノミ・マダニの予防について紹介します。



ノミ



気温13℃になると活発に活動するため、冬の室内でも十分活動できます。

成虫は50cm程までジャンプでき、動物に飛び乗り吸血・産卵します。その後卵が転がり落ち、カーペットやソファなどで孵化・成長し、動物へ寄生します。

一度に50個程の卵を産卵し、暖かい場所では2週間に1回産卵するため、1か月で150個の卵が産卵される事になります。

カーペットやソファをこまめに掃除機をかけ、清潔に保つことで効果的に予防できます！

《ノミによって媒介される病気》

●猫ひっかき病

ノミに吸血され細菌感染した猫に噛まれる・ひっかかれることで、人に感染する病気で発熱・リンパ節の腫れを引き起こします。



●ノミアレルギー性皮膚炎

ノミの吸血時、動物の体内にノミの唾液が侵入することでアレルギー反応を引き起こします。痒みがかなり強く、尾の付け根・腰・腹部に多く見られます。

●瓜実条虫

動物がノミを食べることで消化管に寄生し、食欲不振・下痢を引き起こします。肛門・便に米粒のようなものが付いていたら注意が必要です。寄生虫の一部の可能性がります。

毛を掻き分けた時に黒い粒があったら注意！
ノミは血液の赤い成分を消化できないため、ノミの糞を水に溶かすと赤っぽく変化します。黒い粒を見つけたら確認しましょう。





マダニ



山や草むらに生息し、吸血するため動物が来るのを待ち構えています

春から秋にかけ吸血・脱皮を繰り返し0.5mm程に成長し産卵前の吸血後の大きさは約1cm程になります

寄生したマダニを無理にとろうとすると、口が残り皮膚炎の原因となってしまうので病院への受診をお勧めします

普段の散歩やキャンプなどのレジャーで感染しやすく、人にも感染する感染症を媒介します



吸血前



吸血後

《マダニによって媒介される病気》

SFTS（重症熱性血小板減少症）

発熱・嘔吐・下痢・下血などを引き起こします

猫の感染率が高く、人にも感染し周辺地域でも発症例があり死亡者も確認されています

最近もSFTSに感染した野良猫に接触し、感染し亡くなった方もいるので注意が必要です

その他にも、日本紅斑熱やバベシア症などがあります



予防薬

通年予防することで感染症から身を守り、安心してお出かけする事ができます
下記以外にも様々なタイプがあります
詳しくはスタッフにご相談ください

おやつタイプ（犬用）



食べることが好きな子におすすめ

投薬が苦手な子におすすめ

滴下タイプ（犬・猫用）

